

会議録

会議の名称	令和8年度第3回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会		
開催日時	令和8年7月23日（木曜日）午前9時30分から午前11時30分まで		
開催場所	田無庁舎2階203会議室		
出席者	委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、中西委員、林委員、辻委員 事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係長、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事、佐々木子ども若者応援課子ども若者計画係主事、吉尾子ども若者応援課子ども若者計画係主事		
議題	1 議題 第3期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績について (1) ワイワイトークでの子どもの評価について (2) 若者会議での若者の評価について (3) 子どもアンケートの速報値について (4) 日常保育での活動の取組状況確認について (5) 評価・検証の仕組みづくりについて 2 報告 (1) ワイワイトークの今後の活動内容について (2) 西東京市若者会議の今後の活動内容について		
会議資料の名称	資料1	第3期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績（重点①～⑦）修正版	
	資料2	西東京市ワイワイトーク（ワークショップ）実施報告	
	資料3	ワイワイトークワークブック	
	資料4	西東京市若者会議実施報告	
	資料5	令和8年度 西東京市子どもアンケート集計(速報値)	
	資料6	日常保育での活動の取組状況確認について	
	資料7	「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証について	
	資料8	ワイワイトーク体験活動について	
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録		
会議内容			
1 議題 (1)第3期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績について 事務局から資料1に沿って説明 ○小野部会長： 本日は資料1 重点②の3ページから10ページの事業に絞って議論する。重点②以外も評価するかという点については、10月に再度議論する。 議題1について、これまでの専門部会で出た意見を踏まえて市ホームページのURLを資料に併記してもらったが、市ホームページの構成上、該当のページが更新または削除されてしまっているなどの理由で閲覧できないことがある。現在、広報プロモーション課で市ホームページの更新を予定していると聞いたがいかがか。 ○事務局： 過去の情報が多く残ると分かりにくくなってしまうため、基本的に新しい情報へ更新していく			

方針となっている。

○小野部会長：

ワイワイトークなどについては昨年度のものも閲覧できた方がよいと思うので工夫してもらいたい。資料にURLを併記してもらったが、紙ベースの資料では確認しづらい。部会員へデータ提供をしていただきたい。

(2) 西東京市ワイワイトークについて

事務局から資料2、3に沿って説明

○小野部会長：

部会員もワイワイトークには参加されているので、実際に参加して、あるいは中西委員は大学生と活動してみて、評価の観点や感想などあれば伺いたい。来年度に向けて改善点を含めて議論していけたらと思う。

○中西委員：

今年も武蔵野大学でワイワイトークを開催させてもらい、何事もなく無事に終わってよかった。ゼミ生と一緒にやったが、まず、総合計画と資源循環サミットというワイワイトークのテーマ自体が馴染みにくく、ファシリテーターや運営に携わったメンバーからは中高生であっても子どもには少し難しいテーマなのではないかという意見が出た。

資源循環サミットだと、子どものことではなくポイ捨て問題を取り扱った事業で、大人が関係している問題なうえにゴミ拾いをしてポイ捨てが減るわけでもなく、他の対策を考えたが、まとめるのが難しかったという意見もあった。馴染みのないことを話すというのが難しく感じたため、参加者に関係のあることをテーマにするのがよいのではないかと思った。

アイスブレイクはよかった。机の距離はあったが、話すときに近くへ行けたのが良かったという感想があった。

大学生のファシリテーターがグループを任されており、試行錯誤していたため、事前にファシリテーションの流れを話せたり、市の職員と確認したりできていたらよかったのではないかと感じた。

また今回は運営側で大学生や市の職員の参加も多かったが、子どもたちからすると、誰が何の人なのかというのがわかりにくかった。名札をしていてもわかりにくかったため、「市長」や「大学生」と書かれた襷のようなものがあるとよかったのではないか。話をするときは紹介があったが、それまでは誰なのだろうという話になっていたようであった。

○小野部会長：

大学生たちがこの取組の中心になっていたため、その大学生たちからフィードバックしてもらえるのは非常にありがたい。

他の方々は見学していて何かあったか。小林委員は大学生チームに入っていたがどうであったか。

○小林委員：

大学生グループでもどのように評価するべきか悩んでいたところもあったため、テーマが難しすぎたというのがなかったとは言いきれない。

全体的に活発な意見交換ができていたので、意見の表明としてはいい機会だったのではないかと思う。

○小野部会長：

意見表明の場としてはよかった。内容が大学生にとって難しかったということは、小学生にと

ってはかなり難しかったということである。

○辻委員：

今回で3回目になるが、大学生の力がなければできていなかったのもとてもありがたいと感じた。ダイレクトに意見を表明できる場があるというのは非常に評価できることである。それに対して大学生のサポートもきちんとついているというのはとてもよいことである。

1回目と2回目、3回目の参加人数はどうだったのか。

○事務局：

1回目は35名ほど参加があった。2回目は11名。3回目も12名であった。

○辻委員：

1回目は子どもたちもどのようなものか興味をもって参加してくれると思うが、実施回数を重ねていくときにどうしたら参加人数を増やせるかというのは来年の大きな課題だと思う。去年は案内する時期が遅かったのかもしれないと考え、今年度夏休みの前に案内するなどをしたがあまり参加人数が変わらなかった。参加人数を増やしていくためにはどうしたらよいかを考えていくことは非常に大きな課題だと思う。

先ほど小林委員の話にもあったが、参加者はここでよい体験ができたと思うかもしれないため、まずは引っ張ってくるための仕掛けを考えなければならないと思った。

○小野部会長：

子どもにもっと知ってもらうために周知を強化してほしい。リピーターが3人いて、参加した子どもは参加することに意義を感じてくれているのだと思っている。コンテンツはよかったが、周知の部分が大きな課題である。

○辻委員：

周知の方法や周知した内容が子どもの興味を引く内容であったのかが重要である。中学生の参加者数が少ないと言われたため、全校生徒に向けて周知を行った。単に情報を出すだけでなくアクションを起こしたが、参加を希望するものが出なかったというのは周知の方法とは違う何かに課題があるのではないかと思う。

○小野部会長：

チラシの内容も少し難しすぎるのではないかという意見があった。市の広報担当の方と話す機会があり、もう少し小学生向けのわかりやすい内容にした方がよかったのではないかという意見をもらった。何を議論するのが伝わりにくかったのではないかと感じた。また、事業評価は興味がわからないかもしれないとも考えている。

例えば葛飾区では、子どもが学校について話すなど、子どもが興味をもちやすく話しやすいテーマを扱うようであった。

○島崎委員：

ワイワイトーク当日の7月11日は、近くの柳沢中学校が土曜授業のため登校日だった。そうであれば放課後カフェでチラシを出すなどしてみようかと思ったが難しかった。開催場所に近くて、児童生徒が参加しやすい学校の登校日などと開催日程が被らないよう考慮する必要があると思う。市内全校のことを考慮するのは難しいと思うが、気かけるとよいと思う。

○小野部会長：

私立も含めて時期は検討した方がよいと考える。

○島崎委員：

最終日の発表の際には保護者が同じフロアに入って来られる状態だったため、子どもが書いた付箋に対して保護者が意見をし、子どもが保護者の様子を伺っている場面を見かけた。会場内でも保護者と子どもは別々にしておいた方がよいのかなと思った。子どもが子どもの中で意見を表明するという時間であるのに、子どもによっては保護者の目を気にしていたのが残念であった。

○林委員：

中西委員のゼミの学生がファシリテーターということで、教員として事前にどんな練習や準備をしているのか知りたい。大学生は西東京市民ばかりではなかったため、西東京市のことは全然知らないという人もいたが、西東京市の取組を知ることができたり、自分の町のこと以上に西東京市について詳しくなったという人もいた。大学生自身の学びの場にもなっており、これから社会に出るにあたってよい学びの場になっていた。

苦勞した点や気をつけた点、昨年度から改善した点などはあるか、引継ぎはされていたのかを聞きたい。

○中西委員：

引継ぎは、昨年度参加していた学生が何人かいたため、意見を聞いたり話し合ったりした。もう少し準備をしておけばよかったという話もあったが、ファシリテーションなどは慣れている学生にやってもらえたかなと思う。

○小野部会長：

みなさんのご意見をまとめると、仕組みとしてはいいものをつくっているが、周知の仕方や周知の中身などが不足しているということであった。

○辻委員：

子どもたちが参加したくなるような仕掛けが必要だと感じる。

○小野部会長：

今回は内容が難しかったり、3つの事業を話したことで内容が薄くなってしまったかなというのがある。事業を2つくらいに絞ってもよかったと思った。

○林委員：

実施時期は、中学校の期末試験は7月4日には終わっていたのか、また高校の期末試験と重なっていなかったかを確認したい。

○辻委員：

公立中学校の期末試験は終わっていた。ただし、7月の1週目や2週目あたりはどこも土曜授業というのを入れている。毎年度3月ごろには次年度の市立学校の予定はおおよそ決まっている。

○小野部会長：

開催日程は夏休みに戻した方がよいのではないかなと思う。夏休みだと自由研究に被せられるので、参加させたい保護者もいると思う。

高校生も夏休み前は気忙しくないか。大学生は夏休みでない方がよいか。

○中西委員：

大学生は実習などがあるので7月や8月頃がよいかなと思う。

○辻委員：

テーマについて話し合い、自分たちで考えたことを市へダイレクトに伝えることができるというのを子どもが魅力に感じるかどうかだと思う。

○小野部会長：

ワイワイトークで出た意見によって「こういうことができた」という事例があると関心がわくのではないと思う。例えば、「この公園でボール遊びができるようになった」などを募集時のチラシなどに載せられるとよいのではないか。事例がないと、意見を言っても本当に伝わるのか疑問に思う子どもも多いと感じる。伝わらないかもしれないところには行きたくないのではないか。

○辻委員：

フィードバックとして、市から返事が出てきているが、それを参加していない子どもたちにも知らせていくことで、市が真剣に対応してくれていることを伝えられるのではないか。

○小野部会長：

今回のワイワイトークを考えるときに、テーマや募集方法などをきちんと整理できたらと思う。

また事務局から高校生年代の取扱いについて今後の課題となっていることがあげられた。高校生年代が若者世代と重なることにより、若者会議参加者と重複しているため、ワイワイトーク参加者に含めるかについて整理する必要がある。ワイワイトークでは、高校生が1人しか参加しなかったので、高校生はワイワイトークではなく若者会議に入れるのがよいのではないかという提案があった。この点も、次回以降の会議で整理していきたい。

(3) 若者会議での若者の評価について

事務局から資料4に沿って説明

○小野部会長：

若者会議に行っていない方からの質問や、行った方からの感想、次年度に向けての提案などあれば何う。

ファシリテーターもとても上手で、みんなが意見を言えている感じがよかったと感じた。全部で4つグループがあったが、1グループに3～5人若者がいるかたちだったか。

○事務局：

3～5人程度の参加があり、その中にファシリテーターが1人入るというかたちだった。

○小野部会長：

第3回までは高校生から社会人まで混ぜてグループを作っていたが、誰が社会人で誰が高校生なのか分からないくらい高校生も意見を言えていてよかった。

テーマ設定や、居住支援が今後どうなっていくか気になった。

○島崎委員：

話す事業が分かれていたのは、話し合いたい事業をグループごとに自分で選んでもらったのか。

○事務局：

意見表明の充実について関わる事業のリストを渡し、グループごとに事業を選んでもらった。

○小野部会長：

高校生世代を若者会議のみの参加にするのであれば、若者会議の中で18歳までの年代の子どもたちの意見を分けて抽出できるようにした方がよいと思った。高校生たちが社会人に交じってどのくらい意見を言えているのかというのが外から見てもわからなかったため、ファシリテーターが見て問題なさそうということであればよいが、気になった。

○島崎委員：

3回目まではグループで密に様々な話をしていたように見えた。

○小野部会長：

高校生も積極的に話せる子たちが来ている印象だった。

(4) 子どもアンケートの速報値について

事務局から資料5に沿って説明

○小野部会長：

いつ回答している方が多かったか。やはり夏休みに入ってからすぐか。それともアンケートの受付が始まってすぐか。

○事務局：

受付が始まって、最初の方にはかなり回答が多かった印象がある。途中の段階で、何校か小学校の先生方から子どもへ知らせたいという連絡をいただき、芝久保小学校や向台小学校などでお知らせしていただいた。そこでまた回答が増えた印象がある。

○小野部会長：

8 ページ問10の「西東京市子ども条例」の認知度を測る質問だが、回答の「聞いたことがない、知らない」が59%というのは悲しく感じる。事務局が話していた出張授業以外の取組が必要だということを思わせる数値である。

○事務局：

ほっとルームは知っていても、それと子ども条例が結びついているというところまではわからないという話も児童館にいる子などからあがっていた。

○林委員：

問4の「アンケートをどこで知りましたか」というところに、「家族、家から」が69%もあるが、保護者向けの周知としては何があるか。

○事務局：

市報や市の公式ライン、Xで流している。学校からもすぐーるで保護者宛にメールを流している。すぐーると回答している方もいるため、票がばらけていると考える。

○林委員：

回答締め切りの7月31日までどれだけ回答数が増やせるか分からないが、効果があるならすぐーるやラインなどで今週か来週にもう一度保護者向けに流せるとよい。

○事務局：

公式ライン、Xは対応する。

○林委員：

高校生の回答数が43人とあり、学校経由が多いと思うが、何を見て答えようと思ったのかわかるとよい。

○小野部会長：

高校1年生が多い。どこかの学校で口頭で周知してくれたのか。

○事務局：

高校は市内の都立高校などに配っており、クラスに掲示をお願いしているため見てくださった方も多いと思う。

○小野部会長：

アスタビルはあまり見てもらえていないようだが、どのように周知しているか。

○事務局：

チラシとポスターを置いてもらっていて、入口のところに配架していただいている。

○小野部会長：

公式ラインを活用することと、学童クラブや児童館・児童センターは子ども若者部の担当なのでもう一度行ってもよいかもしれない。

○小野部会長：

圧倒的に学校から知ったとの回答が多い。このアンケートを毎年やるのは難しいため、今後どのように子どもたちの声を聞いていくか、アンケートをどの程度の頻度でやっていくのがいいのかなど、10月以降にまた議論していけたらと思う。あと1週間で部会員のみなさんも広報などをお願いしたい。

(5) 日常保育での活動の取組状況確認について

事務局から資料6に沿って説明

○小野部会長：

西原保育園を見学し、みなさんの中で印象的だったことなどがあれば伺いたい。

○島崎委員：

こまどり保育園は話し合いの場を見学することができた。担任の先生が1人ひとり子どもの性格などを把握しており、長い時間だったが保育園児たちはすごく集中していて、そのようなことの積み重ねが自分の気持ちを表現できるところにつながっているのだと感じた。

西原保育園はこまどり保育園とは異なり、グループごとに制作をしていた。表現としては違ったが、いずれにしても担任の先生と保育園児の信頼関係の中で自分の気持ちを表現して、それを受け止められているのだなと感心した。

○小野部会長：

私立だと若い年代の先生が多い印象だが、公立園ということもありベテランの先生が多かった。反対意見を言った子に対しても否定しないのが素晴らしいなと思った。質の高い保育だと感じた。

○辻委員：

自分の話を受け止められる経験がきちんとできていると、その子自身も他の子の話を受け止め

られるようになると思う。

○小野部会長：

小学校になってからもきちんと意見を聞いてもらえていた子とそうでない子は違うと感じる。

○中西委員：

いろ紙が部屋の前方に置いてあり、子どもが自由に取りに行く際に、男の子も女の子も好きな色を選んでおり、その自由さがよかったと思った。3グループあって先生が2人だったため、子どもたちは適度に自由に考え、必要があれば先生が見てというかたちで子どもたちの意見を取り入れながらできていた。

(6)評価・検証の仕組みづくりについて

事務局から資料7に沿って説明

○小野部会長：

事務局から現時点で課題に感じていることについて説明を受けたが、何かあるか。

○林委員：

事業の評価資料自体を毎年作るかどうか、というのも含めて課題として提案いただいているということか。

○事務局：

ワイワイプランの事業評価全体としては、現在お示ししているこのような表を重点的な取組に限らず作成する必要があると思うが、子ども・若者の権利の観点からの評価にあたって、こういった表がどこまで必要かという点と重点⑦まで評価していただくほうがいいのかについてご意見いただけたらと思う。

○小野部会長：

資料1の3ページの上のところに「子どもの評価、若者の評価、専門部会からのコメント」というところがあるが、「子どもの評価」というのはワイワイトークの子どもたちからの評価、「若者の評価」というのは若者会議の若者たちからの評価、「専門部会からのコメント」は私たちからのコメントをまとめたものを入れていく。

今回、子どもの評価と若者の評価は重点②に絞って意見をもらった。専門部会のコメントは私たちの意見の内容をまとめて案をつくってもらい、10月の審議会でもう一度議論する。

例えば2ページの重点①は専門部会からのコメントという欄しかないが、子どもの評価や若者の評価は入れた方がいいのか。前回までの議論では毎年するのは難しいのではないかということ、次年度以降もおそらく1つか2つを選んでいくのがよいのではないかという議論だった。

専門部会からのコメントは重点①～⑦すべてに入っているが、すべてやる必要があるのかという点も議論したい。10月の会議に向けては重点②だけ評価することになったが、11月、12月とまだ時間があるので重点②以外も取り上げた方がよいのかということもみなさんから意見をいただけたらと思う。

○辻委員：

我々は評価していくわけだが、ずっと評価だけをしているわけではないため、小野部会長の話にあったように絞ってやっていくのがいいのかなと思う。そうすれば評価としての確からしさみたいなものも出てくると思う。

○林委員：

専門部会からのコメントというのは難しいが、例えば川崎市などは部会員が2人組に分かれ、評価の回答をする箇所を分担して内容確認をしてきて、会議の場で過不足がないか全体で確認をしている。せっかく事業担当課が自己評価しているのでコメントはあった方がよいと思う。全員が全部を見られるとよいが、難しいのであれば分担制をとるのもよいと思う。

○小野部会長：

子ども・若者の評価を受ける事業は絞ってよいと思うが、我々は分担制にして全部見るようにするというにしたい。1人2つか3つの事業を見られると良いかと思う。

また子ども若者の声を聞くテーマは、今回は事業評価ということで資源循環サミットや総合計画、ワイワイトークについて評価をしてもらったが、一昨年の最初の年に取り上げたように、子ども参加や子どもの居場所について取り上げた方が子どもたちにとっては話しやすいのではないかと思うがいかがか。

○島崎委員：

テーマ自体も、子どもたちにどういうことを話し合いたいかわかるのがよいのではないか。

○小野部会長：

それでもよいと思うが、開催日は今回のように2週間のうちに3回などの場合は難しいのではないかと思う。

○島崎委員：

初回でテーマについての意見を聞き、1か月くらい空ける覚悟で日程を組むのはどうか。若者会議もそうだが、何か言いたいことがあって会議に参加している若者もいると思うので、先にテーマが決まっていると、想定していたものとは違うと思った若者もいるのではないか。

○小林委員：

参加の応募をするときにフォームに話したいテーマを入れてもらえばよいのではないか。

○小野部会長：

このテーマなら話したいという子とそうではない子がいると思う。子どもの居場所について話し合うから今回参加したいなという子もいるのではないか。

○島崎委員：

応募要項のところに、前年度はこういうテーマで話し合ったなど、今まで話し合ったテーマを簡潔に載せておくのがよいのではないか。

○小野部会長：

若者会議は10か月の間に7～8回あるので、テーマ設定から行いやすいと思う。

ワイワイトークは今の形式で2週間のうちに3回程度の開催だと少々難しい。学生も準備がいることもあり、専門部会も短期間で複数回会議を重ねることが厳しいと思う。

特定の事業を評価するという方法がよいのか、あるいは子どもの参加や居場所についての方がよいのか悩むところである。中野区や豊島区は事業評価をするというよりは、学校についてなどをテーマとして、意見を区に伝えることを目的としており、事業評価を取り上げている自治体はあまり多くないと感じている。だからこそ難しいテーマではあるが、やる意味はあるのではないかと考えている。

○林委員：

子どもが話しやすいテーマとなると、学校や居場所など特定なものがテーマにされがちである。子どもたちのやりたいテーマと行政側がやりたいテーマを1つずつとして、毎年変えていき、どちらもできるようにした方が事業評価としてはよいのではないか。

○小野部会長：

事業評価にこだわり、その中でも話しやすいテーマを考えるという方向で現段階では結論づけるということによいか。

○林委員：

もし子どもの施設などに出向いて意見を聞く出張ワイワイトークなどがあれば、事前に聞いたテーマでやるのがよいかもしれない。

○小野部会長：

昨年度は開催したが、今年度は出張ワイワイトークを開催していない。ワークショップやアンケート、保育園見学などをどのように組み合わせていくのか、どのくらいの頻度でやっていくのかということも含め、10月以降に話し合えたらと思う。

2 報告

(1) ワイワイトークの今後の活動内容について

事務局から資料8に沿って説明

○小野部会長：

これは、部会員は任意で出席してほしい。

今後のスケジュールについて、体験活動の作戦会議はワイワイトークに参加した子どもたちとそれ以外の子どもたちも参加できるということだが、次の専門部会は10月の1週目であるため、募集チラシなどを見る時間がない。事務局に作成を任せたい。

○事務局：

チラシはこちらで作成し、配付前に部会員にメールで共有させていただくこととしたい。

○小野部会長：

中西委員のゼミの学生たちも10月18日の作戦会議には関わるということか。

○中西委員：

10月の作戦会議も1月の意見交換会も任意で参加できる学生に呼び掛け、予定の合う学生がいれば参加できればと思う。

○島崎委員：

せっかく体験活動をするならいいなあの着ぐるみが来てくれるとよいと思う。

○小野部会長：

1月23日の意見交換会の内容については次回以降の会議で議論する。

(2) 西東京市若者会議の今後の活動内容について

事務局から説明

○小野部会長：

若者会議は第5回、第6回も傍聴可能か。

○事務局：

傍聴可能である。希望する部会員は事前に連絡をお願いしたい。

○小野部会長：

令和８年度第３回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上